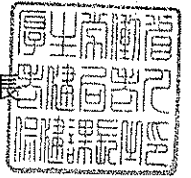




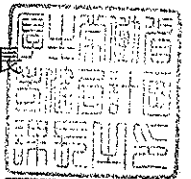
老老発第 0410003 号
 老計発第 0410001 号
 老振発第 0410001 号
 平成 20 年 4 月 10 日

各都道府県介護保険主管部（局）長 殿

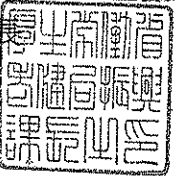
厚生労働省老健局老人保健課長



計 画 課 長



振 興 課 長



「介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準について」及び「指定地域密着型サービス及び指定地域密着型介護予防サービスに関する基準について」の一部改正について

介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準（平成 11 年厚生省令第 40 号）及び指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準（平成 18 年厚生労働省令第 34 号）の一部が平成 20 年 4 月 10 日に改正されることに伴い、関係通知の一部を下記のとおり改正し、同年 5 月 1 日から適用することとしたので、御了知の上、管内市町村（政令指定都市を含む。）、関係団体、関係機関等にその周知徹底を図るとともに、その運用に遺憾のないようにされたい。

記



- 1 介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準について（平成 12 年老企第 44 号）の一部改正
別紙 1 のとおり改正する。

2 指定地域密着型サービス及び指定地域密着型介護予防サービスに関する基準について
(平成18年老計発第0331004号・老振発第0331004号・老老発第0331017号)の一部
改正

別紙2のとおり改正する。

○ 介護老人保健施設の人員、施設及び設備並びに運営に関する基準について(平成12年企第44号) (抄)

改正案	現行
<p>第1 基準省令の性格 1～3 (略)</p> <p>4 小規模介護老人保健施設等の形態は以下のとおり。</p> <p>① サテライト型小規模介護老人保健施設</p> <p>イ サテライト型小規模介護老人保健施設は、当該施設を設置しようとする者により設置される当該施設以外の介護老人保健施設又は病院若しくは診療所(以下「本体施設」という。)との密接な連携を確保しつつ、本体施設とは別の場所で運営され、入所者の在宅への復帰の支援を目的とする定員29人以下の介護老人保健施設をいう。</p> <p>ロ 本体施設と密接な連携を確保する具体的な要件は、本体施設とサテライト型小規模介護老人保健施設は、自動車等による移動に要する時間がおおむね20分以内の近距離であること。本体施設の医師等又は協力病院が、サテライト型小規模介護老人保健施設の入所者の病状急変等の事態に適切に対応できる体制を採ること。</p> <p>ハ サテライト型小規模介護老人保健施設は、原則として、本体施設に1か所の設置とする。ただし、本体施設の医師等により、サテライト型小規模介護老人保健施設の入所者の医学的管理等の処遇が適切に行われると認められるときは、本体施設に2か所以上の設置も認めることとする。</p> <p>② 医療機関併設型小規模介護老人保健施設</p> <p>イ 医療機関併設型小規模介護老人保健施設は、病院又は診療所に併設(同一敷地内又は隣接する敷地において、サービスの提供、夜勤を行う職員が一体的に行われているものを指すこと。)され、入所者の在宅への復帰の支援を目的とする定員29人以下の介護老人保健施設であつて、前項に規定するサ</p>	<p>第1 基準省令の性格 1～3 (略)</p>

テラライト型小規模介護老人保健施設以外のものをいう。
ロ 医療機関併設型小規模介護老人保健施設は、病院又は診療所に1か所の設置とする。

③ 分館型介護老人保健施設
分館型介護老人保健施設（以下「分館型介護老人保健施設」という。）は、「分館型介護老人保健施設について」（平成12年9月5日老振第53号）に示された従来から整備してきた施設であり、介護老人保健施設の開設者が当該介護老人保健施設と一体として運営するものとして開設する介護老人保健施設であって過疎地域自立促進特別措置法等に規定する地域に整備された施設である。

第2 人員に関する基準

1 医師
(1) 介護老人保健施設においては、常勤の医師が1人以上配置されていないこと。したがって、入所者数100人未満の介護老人保健施設にあつても常勤の医師1人の配置が確保されていないこと。また、例えば、入所者数150人の介護老人保健施設にあつては、常勤の医師1人のほか、常勤医師0.5人に相当する非常勤医師の配置が必要となること。なお、サテライト型小規模介護老人保健施設及び医療機関併設型小規模介護老人保健施設（以下「サテライト型小規模介護老人保健施設等」という。）並びに分館型介護老人保健施設における医師の配置については、次のイ及びロのとおりとすること。
イ サテライト型小規模介護老人保健施設等

サテライト型小規模介護老人保健施設と一体として運営される本体施設又は医療機関併設型小規模介護老人保健施設の併設医療機関に配置されている医師が入所者全員の病状等を把握し施設療養全体の管理に責任を持つ場合であつて、入所者の処遇が適切に行われると認められるときは、これを置かないことができること。

第2 人員に関する基準

1 医師
(1) 介護老人保健施設においては、常勤の医師が1人以上配置されていないこと。したがって、入所者数100人未満の介護老人保健施設にあつても常勤の医師1人の配置が確保されていないこと。また、例えば、入所者数150人の介護老人保健施設にあつては、常勤の医師1人のほか、常勤医師0.5人に相当する非常勤医師の配置が必要となること。なお、サテライト型小規模介護老人保健施設及び医療機関併設型小規模介護老人保健施設（以下「サテライト型小規模介護老人保健施設等」という。）並びに分館型介護老人保健施設における医師の配置については、次のイ及びロのとおりとすること。

イ サテライト型小規模介護老人保健施設及び医療機関併設型小規模介護老人保健施設
当該サテライト型小規模介護老人保健施設等と一体として運営される本体施設に配置されている医師が入所者全員の病状等を把握し施設療養全体の管理に責任を持つ場合であつて、入所者の処遇が適切に行われると認められるときは、これを置かないことができること。

<p>ロ (略)</p> <p>(2) (略)</p> <p>2・3 (略)</p> <p>4 支援相談員</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 支援相談員の員数は、基準省令により算定した数以上の常勤職員を配置しなければならないこと。なお、医療機関併設型小規模介護老人保健施設における支援相談員の配置については、当該施設の入所者に対するサービス提供が適切に行われると認められる場合においては、実情に応じた適当数でよいこととし、サテライト型小規模介護老人保健施設及び分館型介護老人保健施設における支援相談員の配置については、次のイ及びロのとおりとする。</p>	<p>ロ (略)</p> <p>(2) (略)</p> <p>2・3 (略)</p> <p>4 支援相談員</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 支援相談員の員数は、基準省令により算定した数以上の常勤職員を配置しなければならないこと。なお、医療機関併設型小規模介護老人保健施設における支援相談員の配置については、当該施設の入所者に対するサービス提供が適切に行われると認められる場合においては、実情に応じた適当数でよいこととし、サテライト型小規模介護老人保健施設及び分館型介護老人保健施設における支援相談員の配置については、次のイ及びロのとおりとする。</p>
<p>イ サテライト型小規模介護老人保健施設</p> <p>当該サテライト型小規模介護老人保健施設と一体として運営される本体施設に配置されている支援相談員によるサービス提供が、本体施設及びサテライト型小規模介護老人保健施設の入所者に適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。</p> <p>ロ (略)</p> <p>5 理学療法士又は作業療法士</p> <p>理学療法士又は作業療法士は、介護老人保健施設の入所者に対するサービスの提供時間帯以外の時間において指定訪問リハビリテーションのサービス提供に当たるとは差し支えないものである。ただし、介護老人保健施設の理学療法士又は作業療法士の常勤換算方法における勤務時間数に、指定訪問リハビリテーションに従事した勤務時間は含まれないこと。</p> <p>サテライト型小規模介護老人保健施設及び医療機関併設型小規模介護老人保健施設については、当該サテライト型小規模介護老人保健施設と一体として運営される本体施設に配置されている理学療法士又は作業療法士によるサービス提供が、本体施設及びサテラ</p>	<p>イ サテライト型小規模介護老人保健施設</p> <p>当該サテライト型小規模介護老人保健施設と一体として運営される本体施設(介護老人保健施設に限る。)に配置されている支援相談員によるサービス提供が、当該本体施設及びサテライト型小規模介護老人保健施設の入所者に適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。</p> <p>ロ (略)</p> <p>5 理学療法士又は作業療法士</p> <p>理学療法士又は作業療法士は、介護老人保健施設の入所者に対するサービスの提供時間帯以外の時間において指定訪問リハビリテーションのサービス提供に当たるとは差し支えないものである。ただし、介護老人保健施設の理学療法士又は作業療法士の常勤換算方法における勤務時間数に、指定訪問リハビリテーションに従事した勤務時間は含まれないこと。</p> <p>サテライト型小規模介護老人保健施設等については、サテライト型小規模介護老人保健施設と一体として運営される本体施設(介護老人保健施設に限る。)又は医療機関併設型小規模介護老人保健施設に併設医療機関に配置されている理学療法士又は作業療法士に</p>

<p>イト型小規模介護老人保健施設等の入所者に適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。</p> <p>6 栄養士 入所定員が100人以上の施設においては常勤職員を1人以上配置することとしたものである。ただし、同一敷地内にある病院等の栄養士がいることにより、栄養指導等の業務に支障がない場合には、兼務職員をもって充てても差し支えないこと。 なお、100人未満の施設においても常勤職員の配置に努めるべきであること。 また、当該サテライト型小規模介護老人保健施設等と一体として運営される本体施設に配置されている理学療法士又は作業療法士によるサービス提供が、本体施設及びサテライト型小規模介護老人保健施設等の入所者に適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。</p>	<p>よるサービス提供が、当該本体施設又は併設医療機関及びサテライト型小規模介護老人保健施設等の入所者に適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。</p> <p>6 栄養士 入所定員が100人以上の施設においては常勤職員を1人以上配置することとしたものである。ただし、同一敷地内にある病院等の栄養士がいることにより、栄養指導等の業務に支障がない場合には、兼務職員をもって充てても差し支えないこと。 なお、100人未満の施設においても常勤職員の配置に努めるべきであること。 また、サテライト型小規模介護老人保健施設と一体として運営される本体施設（介護老人保健施設及び病床数100以上の病院に限る。）又は医療機関併設型小規模介護老人保健施設の併設医療機関に配置されている栄養士によるサービス提供が、当該本体施設及びサテライト型小規模介護老人保健施設等の入所者に適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。</p>
<p>7 介護支援専門員 (1) 介護支援専門員については、その業務に専ら従事する常勤の者を1名以上配置しなければならないこと。したがって、入所者が100人未満の介護老人保健施設にあっても1人は配置されていないなければならないこと。また、介護支援専門員の配置は、入所者が100人又はその端数を増すごとに1人を標準とするものであり、入所者が100人又はその端数を増すごとに増員することであり、入所者が100人又はその端数を増すごとに増員すること及び、入所者が100人又はその端数を増すごとに増員することについては、非常勤とすることを妨げるものではない。</p>	<p>7 介護支援専門員 (1) 介護支援専門員については、その業務に専ら従事する常勤の者を1名以上配置しなければならないこと。したがって、入所者が100人未満の介護老人保健施設にあっても1人は配置されていないなければならないこと。また、介護支援専門員の配置は、入所者が100人又はその端数を増すごとに1人を標準とするものであり、入所者が100人又はその端数を増すごとに増員することであり、入所者が100人又はその端数を増すごとに増員すること及び、入所者が100人又はその端数を増すごとに増員することについては、非常勤とすることを妨げるものではない。なお、医療機関併設型小規模介護老人保健施設における介護支援専門員の配置については、当該施設の入所者に対するサービス提供が適切に行われると認められる場合には、実情に応じた適当数でよいこと。</p>

(2) (略)

(3) 当該サテライト型小規模介護老人保健施設と一体として運営さ

<p>れる本体施設（介護老人保健施設又は病院（指定介護療養型医療施設に限る。）に限る。）に配置されている介護支援専門員によるサービス提供が、本体施設及びサテライト型小規模介護老人保健施設の入所者に適切に行われると認められるときは、これを置くことができる。</p> <p>8・9 (略)</p> <p>第3 施設及び設備に関する基準</p> <p>1 一般原則</p> <p>(1) 介護老人保健施設の施設及び構造設備については、基準省令のほか建築基準法、消防法等の関係規定を遵守するとともに、日照、採光、換気等について十分考慮したものとし、入所者の保健衛生及び防災につき万全を期すこと。</p> <p>(2) 介護老人保健施設の環境及び立地については、入所者の療養生活を健全に維持するため、ばい煙、騒音、振動等による影響を極力排除するとともに、交通、水利の便等を十分考慮したものとすること。</p>	<p>れる本体施設に配置されている介護支援専門員によるサービス提供が、本体施設及びサテライト型小規模介護老人保健施設の入所者に適切に行われると認められるときは、これを置くことができる。</p> <p>8・9 (略)</p> <p>第3 施設及び設備に関する基準</p> <p>1 一般原則</p> <p>(1) 施設に係る一般原則</p> <p>① 介護老人保健施設の施設及び構造設備については、基準省令のほか建築基準法、消防法等の関係規定を遵守するとともに、日照、採光、換気等について十分考慮したものとし、入所者の保健衛生及び防災につき万全を期すこと。</p> <p>② 介護老人保健施設の環境及び立地については、入所者の療養生活を健全に維持するため、ばい煙、騒音、振動等による影響を極力排除するとともに、交通、水利の便等を十分考慮したものとすること。</p> <p>(2) 小規模介護老人保健施設等の定義</p> <p>① サテライト型小規模介護老人保健施設</p> <p>イ サテライト型小規模介護老人保健施設は、当該施設を設置しようとする者により設置される当該施設以外の介護老人保健施設（以下「本体施設」という。）との密接な連携を確保しつつ、本体施設とは別の場所で開催され、入所者の在宅への復帰の支援を目的とする定員29人以下の介護老人保健施設をいう。</p> <p>ロ 本体施設と密接な連携を確保する具体的な要件は、本体施設とサテライト型小規模介護老人保健施設は、自動車等による移動に要する時間がおおむね20分以内の近距離であること。本体施設の医師等又は協力病院が、サテライト型小規模介護老人保健施設の入所者の病状急変等の事態に適切に対応できる体制を採ること。</p> <p>ハ サテライト型小規模介護老人保健施設は、本体施設に1か所</p>
---	--

の設置とする。

② 医療機関併設型小規模介護老人保健施設

イ 医療機関併設型小規模介護老人保健施設は、病院又は診療所に併設（同一敷地内又は隣接する敷地において、サービスの提供、夜勤を行う職員の配置等が一体的に行われているものを指すこと。）され、入所者の在宅への復帰の支援を目的とする定員29人以下の介護老人保健施設であって、前項に規定するサテライト型小規模介護老人保健施設以外のものをいう。

ロ 医療機関併設型小規模介護老人保健施設は、病院又は診療所に1か所の設置とする。

③ 分館型介護老人保健施設

分館型介護老人保健施設（以下「分館型介護老人保健施設」という。）は、「分館型介護老人保健施設の整備について」（平成12年9月5日老振第53号）に示された従来から整備してきた施設であり、介護老人保健施設の開設者が当該介護老人保健施設と一体として運営するものとして開設する介護老人保健施設であって過疎地域自立促進特別措置法等に規定する地域に整備された施設である。

2 施設に関する基準

(1) 施設に関する基準

①・② (略)

③ 基準省令第3条第3項は、同条第1項各号に定める各施設が当該介護老人保健施設の用に専ら供するものでなければならぬこととしたものであるが、介護老人保健施設と病院、診療所（医療機関併設型小規模介護老人保健施設を除く。）又は指定介護老人福祉施設等の社会福祉施設（以下「病院等」という。）とが併設される場合（同一敷地内にある場合、又は公道をはさんで隣接している場合をいう。以下同じ。）に限り、次に掲げるところにより、同条第3項ただし書が適用されるものである。併設施設（介護老人保健施設に併設される病院等をいう。以下同じ。）と施設を共用する場合の運用に当たっては留意すること。

2 施設に関する基準

(1) 施設に関する基準

①・② (略)

③ 基準省令第3条第3項は、同条第1項各号に定める各施設が当該介護老人保健施設の用に専ら供するものでなければならぬこととしたものであるが、介護老人保健施設と病院、診療所（医療機関併設型小規模介護老人保健施設を除く。）又は指定介護老人福祉施設等の社会福祉施設（以下「病院等」という。）とが併設される場合（同一敷地内にある場合、又は公道をはさんで隣接している場合をいう。以下同じ。）に限り、次に掲げるところにより、同条第3項ただし書が適用されるものである。併設施設（介護老人保健施設に併設される病院等をいう。以下同じ。）と施設を共用する場合の運用に当たっては留意すること。

イ 次に掲げる施設については、併設施設との共用は認められないものであること。ただし、病床の転換に伴い病院又は診療所と介護老人保健施設を併設する場合の診察室については、併設する当該病院又は診療所の診察室との共用を認めるものであること。

- a 療養室
 - b 診察室
- ロ・ハ (略)

- ④ (略)
- 4 経過措置
- (1) ~ (5) (略)
- (6) 一般病床、療養病床若しくは老人性認知症疾患療養病棟を有する病院又は一般病床、療養病床若しくは老人性認知症疾患療養病棟又は当該診療所の一般病床、療養病床若しくは老人性認知症疾患療養病棟又は当該診療所の一般病床若しくは療養病床の転換を行って介護老人保健施設を開設する場合における当該転換に係る療養室の床面積は、平成24年3月31日までの間は、入所者1人当たり6.4平方メートル以上であればよいこととした。(基準省令附則第13条)

イ 次に掲げる施設については、併設施設との共用は認められないものであること。

- a 療養室
 - b 診察室
- ロ・ハ (略)

- ④ (略)
- 4 経過措置
- (1) ~ (5) (略)
- (6) 一般病床、療養病床若しくは老人性認知症疾患療養病棟を有する病院又は一般病床、療養病床若しくは老人性認知症疾患療養病棟又は当該診療所の一般病床若しくは老人性認知症疾患療養病棟又は当該診療所の一般病床若しくは療養病床を平成24年3月31日までの間に転換を行って介護老人保健施設を開設する場合における当該転換に係る療養室の床面積は、次に掲げる区分に応じた基準によるものとする。(基準省令附則第13条)

① 転換に係る療養室が平成18年7月1日以後に新築、増築又は全面的な改築の工事に着工された場合 平成24年3月31日までの間は、入所者1人当たり6.4平方メートル以上であること。

② 転換に係る療養室が平成18年7月1日以後に新築、増築又は全面的な改築の工事に着工されていない場合 入所者1人当たり6.4平方メートル以上であること。
なお、平成24年4月1日以降、当該基準に該当する施設であつて、本則の基準である1人当たり8平方メートル以上であることを満たしていないものについては、本則の基準を満たしている施設との均衡に配慮した介護報酬上の評価を行うこととする。ただし、療養室が談話室に近接して設けられているものについては、本則の基準から、当該談話室の面積を当該談話

室に近接する療養室の定員数で除した面積を減じた面積以上を満たす場合は、この限りでない。

(7)～(9) (略)

(10) 一般病棟、療養病棟若しくは老人性認知症疾患療養病棟を有する病院又は一般病棟若しくは療養病棟を有する診療所の開設者が、当該病院の一般病棟、療養病棟若しくは老人性認知症疾患療養病棟又は当該診療所の一般病棟若しくは療養病棟を平成24年3月31日までの間に転換を行って介護老人保健施設を開設する場合における当該転換に係る建物の耐火構造については、基準省令第4条第1項第1号の規定は適用せず、建築基準法の基準によるものでよいこととした。(基準省令附則第17条)

(11) 一般病棟、療養病棟若しくは老人性認知症疾患療養病棟を有する病院又は一般病棟若しくは療養病棟を有する診療所の開設者が、当該病院の一般病棟、療養病棟若しくは老人性認知症疾患療養病棟又は当該診療所の一般病棟若しくは療養病棟を平成24年3月31日までの間に転換を行って介護老人保健施設を開設する場合における当該転換に係る屋内の直通階段及びエレベーターについては、転換前の医療法による基準と同等のものでよいこととした。(基準省令附則第18条)

(12) 一般病棟、療養病棟若しくは老人性認知症疾患療養病棟を有する病院又は一般病棟若しくは療養病棟を有する診療所の開設者が、当該病院の一般病棟、療養病棟若しくは老人性認知症疾患療養病棟又は当該診療所の一般病棟若しくは療養病棟の転換を行って介護老人保健施設を開設する場合における当該転換に係る療養室に隣接する廊下の幅は、内法による測定で、1.2メートル以上(ただし、両側に療養室等又はエレベーター室がある廊下の幅は、内法による測定で、1.6メートル以上)であればよいこととした。なお、廊下の幅は、壁から測定した幅でよいこと。(基準省令附則第19条)

第4 運営に関する基準

1～18 (略)

(7)～(9) (略)

(10) 一般病棟、療養病棟若しくは老人性認知症疾患療養病棟を有する病院又は一般病棟若しくは療養病棟を有する診療所の開設者が、当該病院の一般病棟、療養病棟若しくは老人性認知症疾患療養病棟又は当該診療所の一般病棟若しくは療養病棟の転換を行って介護老人保健施設を開設する場合における当該転換に係る療養室に隣接する廊下の幅は、内法による測定で、1.2メートル以上(ただし、両側に療養室等又はエレベーター室がある廊下の幅は、内法による測定で、1.6メートル以上)であればよいこととした。なお、廊下の幅は、壁から測定した幅でよいこと。(基準省令附則第17条)

第4 運営に関する基準

1～18 (略)

<p>19 管理者による管理 (基準省令第23条)</p> <p>介護老人保健施設の管理者は常勤であり、かつ、原則として専ら当該介護老人保健施設の管理業務に従事するものである。ただし、以下の場合であって、介護老人保健施設の管理業務に支障がないときは、他の職務を兼ねることができるものとする。</p> <p>(1)・(2) (略)</p> <p>(3) 当該介護老人保健施設がサテライト型小規模介護老人保健施設である場合であって、当該サテライト型小規模介護老人保健施設の本体施設の管理者又は従業業者として、当該サテライト型小規模介護老人保健施設の管理業務に従事する場合</p> <p>20～33 (略)</p>	<p>19 管理者による管理 (基準省令第23条)</p> <p>介護老人保健施設の管理者は常勤であり、かつ、原則として専ら当該介護老人保健施設の管理業務に従事するものである。ただし、以下の場合であって、介護老人保健施設の管理業務に支障がないときは、他の職務を兼ねることができるものとする。</p> <p>(1)・(2) (略)</p> <p>(3) 当該介護老人保健施設がサテライト型小規模介護老人保健施設である場合であって、当該サテライト型小規模介護老人保健施設の本体施設である指定地域密着型特定施設又はサテライト型居住施設である指定地域密着型介護老人福祉施設の管理者又は従業員としての職務に従事する場合</p> <p>(4) 当該介護老人保健施設がサテライト型小規模介護老人保健施設である場合であって、当該サテライト型小規模介護老人保健施設の本体施設である指定地域密着型特定施設又はサテライト型居住施設である指定地域密着型介護老人福祉施設の管理者又は従業員として、当該サテライト型小規模介護老人保健施設の管理業務に従事する場合</p> <p>20～33 (略)</p>
--	---

○ 指定地域密着型サービス及び指定地域密着型介護予防サービスに関する基準について（平成18年3月31日老計発 0331004号、老振発 0331004号、老老発 0331017号 厚生労働省老健局計画課長、振興課長、老人保健課長連名通知）（抄）

	改 正 後	改 正 前
<p>五 地域密着型特定施設入居者生活介護 1 人員に関する基準</p> <p>(1) 生活相談員（基準第110条第7項） サテライト型特定施設（本体施設と密接な連携を確保しつつ、本体施設とは別の場所で運営される指定地域密着型特定施設をいう。また、本体施設とは、サテライト型特定施設と同じ法人により設置され、当該施設に対する支援機能を有する介護老人保健施設又は病院若しくは診療所をいう。この場合において、本体施設と密接な連携を確保する具体的な要件は、本体施設とサテライト型特定施設は、自動車等による移動に要する時間がおおむね20分以内の近距離であることをいう。以下、この号において同じ。）の生活相談員については、本体施設（介護老人保健施設に限る。）の支援相談員によるサービス提供が、当該本体施設の入所者及びサテライト型特定施設の入居者に適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。</p> <p>(2) (略)</p> <p>(3) 主として指定地域密着型特定施設入居者生活介護の提供に当たたる看護職員及び介護職員 基準第110条第4項の「主として指定地域密着型特定施設入居者生活介護の提供に当たたる」看護職員及び介護職員は、指定地域密着型特定施設の利用者に対するサービス提供に従事することを基本とするものである。ただし、当該要介護者のサービス利用に支障のないときに、併設事業所等の要介護者等に対するサービス提供を行うことは差し支えない。</p> <p>指定時においては、前記の趣旨が運営規程において明示されていることを確認する必要がある。 また、「主として指定地域密着型特定施設入居者生活介護の提供に当たたる」看護職員及び介護職員のうち、それぞれ1人以上は、常勤の職員でなければならない。ただし、サテライト型特定施設の場合にあっては、これらの職員は、それぞれ常勤換算方法で1以上の基準を満たしていれば非常勤の者であっても差し支えない。</p>	<p>五 地域密着型特定施設入居者生活介護 1 人員に関する基準</p> <p>(1) (略)</p> <p>(2) 主として指定地域密着型特定施設入居者生活介護の提供に当たたる看護職員又は介護職員 基準第110条第4項の「主として指定地域密着型特定施設入居者生活介護の提供に当たたる看護職員又は介護職員」とは、指定地域密着型特定施設の利用者に対するサービス提供に従事することを基本とするものである。ただし、当該要介護者のサービス利用に支障のないときに、併設事業所等の要介護者等に対するサービス提供を行うことは差し支えない。</p> <p>指定時においては、前記の趣旨が運営規程において明示されていることを確認する必要がある。</p>	

(4) 機能訓練指導員 (基準第 110 条第 5 項及び第 7 項)

機能訓練指導員は、日常生活を営むのに必要な機能の減退を防止するための訓練を行う能力を有する者とされたが、この「訓練を行う能力を有する者」とは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、柔道整復師又はあん摩マッサージ指圧師の資格を有する者とする。

また、サテライト型特定施設の機能訓練指導員については、本体施設(診療所を除く。)の理学療法士又は作業療法士によるサービス提供が、本体施設の入所者又は入院患者及びサテライト型特定施設の入居者に適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。

(5) 計画作成担当者 (基準第 110 条第 7 項)

サテライト型特定施設の計画作成担当者については、本体施設(介護老人保健施設又は病院(指定介護療養型医療施設に限る。))に限る。)の介護支援専門員によるサービス提供が、本体施設の入所者又は入院患者及びサテライト型特定施設の入居者に適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。

(6) 基準第 110 条第 8 項の規定は、指定小規模多機能型居宅介護に係る第 63 条第 6 項の規定と同趣旨であるため、第 3 の 2 の (1) の ① のトを参照されたい。

(7) 管理者 (基準第 111 条)

指定地域密着型特定施設入居者生活介護事業所の管理者は常勤であり、かつ、原則として専ら当該事業所の管理業務に従事するものである。ただし、以下の場合であって、当該事業所の管理業務に支障がないときは、他の職務を兼ねることができるとする。

- ① 当該地域密着型特定施設他の職務に従事する場合
- ② 同一敷地内にある又は道路を隔てて隣接する等、特に当該事業所の管理業務に支障がないと認められる範囲内に他の事業所、施設等がある場合に、当該他の事業所、施設等の管理者又は従業員としての職務に従事する場合(この場合の他の事業所、施設等の事業の内容は問われないが、例えば、併設される訪問系サービスの事業所のサービス提供を行う従業員との兼務は一般的には管理業務に支障があると考えられるが、訪問系サービス事業所における勤務時間が極めて限られている職員の場合には、例外的に認められる場合もありうる。)

③ 当該指定地域密着型特定施設がサテライト型特定施設であって、本体施設の職務に従事する場合(本体施設が病院又は診療所の場合にあつては、管理者としての職務を除く。)

(3) 機能訓練指導員 (基準第 110 条第 5 項)

機能訓練指導員は、日常生活を営むのに必要な機能の減退を防止するための訓練を行う能力を有する者とされたが、この「訓練を行う能力を有する者」とは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、柔道整復師又はあん摩マッサージ指圧師の資格を有する者とする。

(4) 基準第 110 条第 8 項の規定は、指定小規模多機能型居宅介護に係る第 63 条第 6 項の規定と同趣旨であるため、第 3 の 2 の (1) の ① のトを参照されたい。

(5) 管理者 (基準第 111 条)

指定地域密着型特定施設入居者生活介護事業所の管理者は常勤であり、かつ、原則として専ら当該事業所の管理業務に従事するものである。ただし、以下の場合であって、当該事業所の管理業務に支障がないときは、他の職務を兼ねることができるとする。

- ① 当該地域密着型特定施設他の職務に従事する場合
- ② 同一敷地内にある又は道路を隔てて隣接する等、特に当該事業所の管理業務に支障がないと認められる範囲内に他の事業所、施設等がある場合に、当該他の事業所、施設等の管理者又は従業員としての職務に従事する場合(この場合の他の事業所、施設等の事業の内容は問われないが、例えば、併設される訪問系サービスの事業所のサービス提供を行う従業員との兼務は一般的には管理業務に支障があると考えられるが、訪問系サービス事業所における勤務時間が極めて限られている職員の場合には、例外的に認められる場合もありうる。)

2 設備に関する基準 (基準第 112 条)

(1) ~ (4) (略)

(5) 療養病床転換による基準緩和の経過措置

一般病床、療養病床若しくは老人性認知症疾患療養病棟を有する病院又は一般病床若しくは療養病床を有する診療所の開設者が、当該病院の一般病床、療養病床若しくは老人性認知症疾患療養病棟又は当該診療所の一般病床若しくは療養病床を平成 24 年 3 月 31 日までの間に転換を行ってサテライト型特定施設である指定地域密着型特定施設を開設する場合にあっては、機能訓練室は、本体施設の機能訓練室を利用すれば足りることとする。

3 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (略)

六 基本方針

(1) 指定地域密着型介護老人福祉施設は、地域密着型施設サービス計画に基づき、可能な限り、居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入浴、排せつ、食事等の介護、相談及び援助、社会生活上の便宜の供与その他の日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上の世話を行うことにより、入所者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入所者がその有する能力に目指すものであり、常にその運営の向上に努めなければならないこと。

(2) 指定地域密着型介護老人福祉施設の形態は、次のようなものが考えられる。

- ・ 単独の小規模の介護老人福祉施設
 - ・ 本体施設のあるサテライト型居住施設
 - ・ 居宅サービス事業所 (通所介護事業所、短期入所生活介護事業所等) とや地域密着型サービス事業所 (小規模多機能型居宅介護事業所等) と併設された小規模の介護老人福祉施設
- これらの形態を組み合わせると、本体施設 + 指定地域密着型介護老人福祉施設 (サテライト型居住施設) + 併設事業所といった事業形態も可能である。

(3) サテライト型居住施設とは、本体施設と密接な連携を確保しつつ、本体施設とは別の場所で運営される指定地域密着型介護老人福祉施設をいう。また、本体施設とは、サテライト型居住施設と同じ法人により設置され、当該施設に対する支援機能を有する指定介護老人福祉施設、介護老人保健施設又は病院若しくは診療所をいう。

3 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護 (略)

六 基本方針

(1) 指定地域密着型介護老人福祉施設は、地域密着型施設サービス計画に基づき、可能な限り、居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入浴、排せつ、食事等の介護、相談及び援助、社会生活上の便宜の供与その他の日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上の世話を行うことにより、入所者がその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入所者がその有する能力に目指すものであり、常にその運営の向上に努めなければならないこと。

(2) 指定地域密着型介護老人福祉施設の形態は、次のようなものが考えられる。

- ・ 単独の小規模の介護老人福祉施設
 - ・ 本体施設のあるサテライト型居住施設
 - ・ 居宅サービス事業所 (通所介護事業所、短期入所生活介護事業所等) とや地域密着型サービス事業所 (小規模多機能型居宅介護事業所等) と併設された小規模の介護老人福祉施設
- これらの形態を組み合わせると、本体施設 + 指定地域密着型介護老人福祉施設 (サテライト型居住施設) + 併設事業所といった事業形態も可能である。

(3) サテライト型居住施設とは、本体施設と密接な連携を確保しつつ、本体施設とは別の場所で運営される指定地域密着型介護老人福祉施設をいう。また、本体施設とは、サテライト型居住施設と同じ法人により設置され、当該施設に対する支援機能を有する指定介護老人福祉施設をいう。

また、サテライト型居住施設を設置する場合、各都道府県が介護保険事業支援計画において定める必要利用定員総数の範囲内であれば、本体施設の定員を減らす必要はない。ただし、各都道府県では、同計画の中で、介護老人福祉施設を始めとする介護保険施設の個室・ユニット化の整備目標を定めていることを踏まえ、サテライト型居住施設の仕組みを活用しながら、本体施設を改修するなど、ユニット型施設の整備割合が高まっていくようにする取組が求められる。

(4) 運営に関する基準に従って施設の運営をすることができなくなったことを理由として指定が取り消された直後に再度当該施設から指定地域密着型介護老人福祉施設について指定の申請がなされた場合には、当該施設が運営に関する基準を遵守することを確保することに特段の注意が必要であり、その改善状況等が十分に確認されない限り指定を行わないものとする。

2 人員に関する基準 (基準第 131 条)

(1) 医師 (基準第 131 条第 8 項)

サテライト型居住施設の医師については、本体施設の医師が入所者全体の病状等を把握し施設療養全体の管理に責任を持つ場合であって、本体施設の入所者又は入院患者及びサテライト型居住施設の入所者の処遇が適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。

(2) 生活相談員 (基準第 131 条第 5 項及び第 8 項)

生活相談員の資格については、特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準第 5 条第 2 項によること。

サテライト型居住施設 (本体施設が指定介護老人福祉施設又は介護老人保健施設の場合に限る。) の生活相談員については、常勤換算方法で 1 以上の基準を満たしていれば非常勤の者であっても差し支えないものとする。また、本体施設 (介護老人保健施設に限る。) の生活相談員によるサービス提供が、本体施設及びサテライト型居住施設の入所者に適切に行われると認められるときは、サテライト型居住施設の生活相談員を置かないことができる。

(3) 看護職員 (基準第 131 条第 7 項)

サテライト型居住施設の看護職員については、常勤換算方法で 1 以上の基準を満たしていれば非常勤の者であっても差し支えないものとする。

(4) 栄養士 (基準第 131 条第 8 項)

サテライト型居住施設の栄養士については、本体施設 (指定介護老人

また、サテライト型居住施設を設置する場合、各都道府県が介護保険事業支援計画において定める必要利用定員総数の範囲内であれば、本体施設の定員を減らす必要はない。ただし、各都道府県では、同計画の中で、介護老人福祉施設を始めとする介護保険施設の個室・ユニット化の整備目標を定めていることを踏まえ、サテライト型居住施設の仕組みを活用しながら、本体施設を改修するなど、ユニット型施設の整備割合が高まっていくようにする取組が求められる。

(4) 運営に関する基準に従って施設の運営をすることができなくなったことを理由として指定が取り消された直後に再度当該施設から指定地域密着型介護老人福祉施設について指定の申請がなされた場合には、当該施設が運営に関する基準を遵守することを確保することに特段の注意が必要であり、その改善状況等が十分に確認されない限り指定を行わないものとする。

2 人員に関する基準 (基準第 131 条)

(1) 生活相談員

生活相談員の資格については、特別養護老人ホームの設備及び運営に関する基準第 5 条第 2 項によること。

福祉施設、介護老人保健施設又は病床数100以上の病院に限る。)の栄養士によるサービス提供が、本体施設の入所者又は入院患者及びサテライト型居住施設の入所者に適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。

(5) 機能訓練指導員

基準第131条第9項の「訓練を行う能力を有すると認められる者」とは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、柔道整復師又はあん摩マッサージ指圧師の資格を有する者とする。ただし、入所者の日常生活やレクリエーション、行事等を通じて行う機能訓練指導員については、当該施設の生活相談員又は介護職員が兼務して行っても差し支えないこと。

また、サテライト型居住施設の機能訓練指導員については、本体施設(指定介護老人福祉施設又は介護老人保健施設に限る。)の機能訓練指導員又は理学療法士若しくは作業療法士によるサービス提供が、本体施設及びサテライト型居住施設の入所者に適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。(基準第131条第8項)

(6) 介護支援専門員

介護支援専門員については、入所者の処遇に支障がない場合は、当該指定地域密着型介護老人福祉施設その他の職務に従事することができるものとする。この場合、兼務を行う当該介護支援専門員の配置により、介護支援専門員の配置基準を満たすこととなると同時に、兼務を行う他の職務に係る常勤換算上も、当該介護支援専門員の勤務時間の全体を当該他の職務に係る勤務時間として算入することができるものとすること。

なお、居宅介護支援事業者の介護支援専門員との兼務は認められないもの限りでない。また、増員に係る非常勤の介護支援専門員については、この限りでない。

また、サテライト型居住施設の介護支援専門員については、本体施設(指定介護老人福祉施設、介護老人保健施設又は病院(指定介護療養型医療施設に限る。))に限る。)の介護支援専門員によるサービス提供が、本体施設の入所者又は入院患者及びサテライト型居住施設の入所者に適切に行われると認められるときは、これを置かないことができる。(基準第131条第8項)

(2) 機能訓練指導員

基準第131条第9項の「訓練を行う能力を有すると認められる者」とは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、柔道整復師又はあん摩マッサージ指圧師の資格を有する者とする。ただし、入所者の日常生活やレクリエーション、行事等を通じて行う機能訓練指導員については、当該施設の生活相談員又は介護職員が兼務して行っても差し支えないこと。

(3) 介護支援専門員

介護支援専門員については、入所者の処遇に支障がない場合は、当該指定地域密着型介護老人福祉施設その他の職務に従事することができるものとする。この場合、兼務を行う当該介護支援専門員の配置により、介護支援専門員の配置基準を満たすこととなると同時に、兼務を行う他の職務に係る常勤換算上も、当該介護支援専門員の勤務時間の全体を当該他の職務に係る勤務時間として算入することができるものとすること。

なお、居宅介護支援事業者の介護支援専門員との兼務は認められないもの限りでない。また、増員に係る非常勤の介護支援専門員については、この限りでない。

(4) サテライト型居住施設の生活相談員及び看護職員は、常勤換算方法で

1以上の基準を満たしていれば非常勤の者であっても差し支えない。

(5) サテライト型居住施設は、本体施設との密接な連携が図られるもので

あることを前提として人員基準の緩和を認めており、本体施設の職員によりサテライト型居住施設の入所者に対する処遇等が適切に行われることを要件として、医師、栄養士、機能訓練指導員、介護支援専門員をサテライト型居住施設に置かないことができる。

(6) ～ (9) (略)

3 設備に関する基準 (基準第132条)

(1) ～ (3) (略)

(4) 療養病床転換による設備に関する基準の緩和

療養病床転換による設備に関する基準については、以下の基準の緩和を行うこととするので留意すること。

- ① 病院の療養病床転換による食堂及び機能訓練室に関する基準の緩和
 - 一般病床、療養病床若しくは老人性認知症患者療養病棟を平成24年3月31日までの間に転換し、指定地域密着型介護老人福祉施設を開設しようとする場合において、当該転換に係る食堂の面積は、入所者1人当たり1平方メートル以上を有し、機能訓練室の面積は、40平方メートル以上であればよいこととする。ただし、食事の提供又は機能訓練を行う場合において、当該食事の提供又は機能訓練に支障がない広さを確保することができるときは、同一の場所とすることができるものとする。 (附則第14条)

② 診療所の療養病床転換による食堂及び機能訓練室に関する基準の緩和

一般病床又は療養病床を有する診療所の一般病床又は療養病床を平成24年3月31日までの間に転換し、指定地域密着型介護老人福祉施設を開設しようとする場合において、当該転換に係る食堂及び機能訓練室については、次の基準のいずれかに適合するものであればよいこととする。 (附則第15条)

- 一 食堂及び機能訓練室の面積は、それぞれ必要な広さを有するものとし、合計して入所者1人当たり3平方メートル以上とすること。ただし、食事の提供又は機能訓練を行う場合において、当該食事の提供又は機能訓練に支障がない広さを確保することができるときは、同一の場所とすることができる。

(7) ～ (10) (略)

3 設備に関する基準 (基準第132条)

(1) ～ (3) (略)

(4) 療養病床転換による基準緩和の経過措置

療養病床転換による設備に関する基準については、以下の基準の緩和を行うこととするので留意すること。

- ① 病院の療養病床転換による食堂及び機能訓練室に関する基準の緩和
 - 一般病床、療養病床若しくは老人性認知症患者療養病棟を平成24年3月31日までの間に転換し、指定地域密着型介護老人福祉施設を開設しようとする場合において、当該転換に係る食堂の面積は、入所者1人当たり1平方メートル以上を有し、機能訓練室の面積は、40平方メートル以上であればよいこととする。ただし、食事の提供又は機能訓練を行う場合において、当該食事の提供又は機能訓練に支障がない広さを確保することができるときは、同一の場所とすることができるものとする。また、当該転換を行って開設する指定地域密着型介護老人福祉施設がサテライト型居住施設の場合にあっては、機能訓練室は、本体施設における機能訓練室を利用すれば足りることとする。 (附則第14条)

② 診療所の療養病床転換による食堂及び機能訓練室に関する基準の緩和

一般病床又は療養病床を有する診療所の一般病床又は療養病床を平成24年3月31日までの間に転換し、指定地域密着型介護老人福祉施設を開設しようとする場合において、当該転換に係る食堂及び機能訓練室については、次の基準のいずれかに適合するものであればよいこととする。 (附則第15条)

- 一 食堂及び機能訓練室の面積は、それぞれ必要な広さを有するものとし、合計して入所者1人当たり3平方メートル以上とすること。ただし、食事の提供又は機能訓練を行う場合において、当該食事の提供又は機能訓練に支障がない広さを確保することができるときは、同一の場所とすることができる。

二 食堂の面積は、入所者1人当たり1平方メートル以上を有し、機能訓練室の面積は、40平方メートル以上を有すること。ただし、食事の提供又は機能訓練を行う場合において、当該食事の提供又は機能訓練に支障がない広さを確保することができるときは、同一の場所とすることができる。また、当該転換を行って開設する指定地域密着型介護老人福祉施設がサテライト型居住施設の場合にあっては、機能訓練室は、本施設における機能訓練室を利用すれば足りることとする。

③ (略)

4 運営に関する基準

(1) ～ (12) (略)

(13) 管理者による管理 (基準第146条)

指定地域密着型介護老人福祉施設の管理者は常勤であり、かつ、原則として専ら当該指定地域密着型介護老人福祉施設の管理業務に従事するものである。ただし、以下の場合であつて、当該指定地域密着型介護老人福祉施設の管理業務に支障がないときは、他の職務を兼ねることができるとする。

①・② (略)

③ 当該指定地域密着型介護老人福祉施設がサテライト型居住施設である場合であつて、当該サテライト型居住施設の本体施設の管理者又は従業者としての職務 (本施設が病院又は診療所の場合は、管理者としての職務を除く。) に従事する場合

5・6 (略)

二 食堂の面積は、入所者1人当たり1平方メートル以上を有し、機能訓練室の面積は、40平方メートル以上を有すること。ただし、食事の提供又は機能訓練を行う場合において、当該食事の提供又は機能訓練に支障がない広さを確保することができるときは、同一の場所とすることができる。

③ (略)

4 運営に関する基準

(1) ～ (12) (略)

(13) 管理者による管理 (基準第146条)

指定地域密着型介護老人福祉施設の管理者は常勤であり、かつ、原則として専ら当該指定地域密着型介護老人福祉施設の管理業務に従事するものである。ただし、以下の場合であつて、当該指定地域密着型介護老人福祉施設の管理業務に支障がないときは、他の職務を兼ねることができるとする。

①・② (略)

③ 当該指定地域密着型介護老人福祉施設がサテライト型居住施設である場合であつて、当該サテライト型居住施設の本体施設の管理者又は従業者としての職務に従事する場合

5・6 (略)